

## 掃海艇「えのしま」体験航海 誇りある掃海艇乗りの熱意と優しさに触れて

神奈川地方協力本部厚木募集案内所（所長 岡山一海尉）に、横須賀基地一藤沢市江の島で実施された掃海艇「えのしま」の体験航海に参加した綾瀬市在住の高校生から手紙を頂いたので紹介する。

私は、12月23日広報官に連れられて、掃海艇「えのしま」の体験航海に参加しました。横須賀基地を出港して、たくさん船をみながら浦賀水道を進み、しばらくして船内に入ると、掃海艇の説明を受けました。

掃海艇は全て木造船だと思っていました。「えのしま」は、最初に造られた強化プラスチックの掃海艇であることを知りました。また、今でも戦時中の機雷を発見し、対処している事に驚きました。興味がわき後日、自分で調べてみると海に囲まれた日本の掃海技術は、世界トップクラスであることを知り、さらに驚きました。

私は、海自艦艇の給養員を目指していて、今回念願がなつて、調理室をみせてもらうことができました。調理員長は、調理器具や食材の保管庫、銀色の大きな冷蔵庫などを案内してくれました。調理室は、狭かったのですが、限られたスペースを有効に使う工夫がされていると思いました。また、調理員は2人で、50人以上の食事を作るのは大変だと思いました。

掃海艇での仕事は、とても厳しそうだと思いますが、勤務4ヶ月目の隊員の方から話を聞いて、やりがいを持ち、熱意を持って前向きに仕事をされているのを感じました。私も、その隊員の方のような人間になりたいと思いました。乗員の皆様のおかげで掃海艇「えのしま」について知ることが出来ました。このような機会があれば、また参加したいです。



艦艇の給養員を目指す  
山下翔叶君（右）とお母さん（左）

## 湘南・江の島にて掃海艇「えのしま」一般公開・電灯艦飾を実施

神奈川地方協力本部藤沢募集案内所（所長 鳥津准陸尉）は、12月24日（日）、「湘南の宝石2017-2018 江の島を彩る光と色の祭典」において、横須賀地方隊第41掃海隊の支援を受け、掃海艇「えのしま」一般公開を実施し、約1030人が乗艦した。

掃海艇「えのしま」は、海自初のFRP（強化プラスチック）の船体で、艦艇名は、今回の公開場所、湘南・江の島に由来している。当日は、公開時間前から多くの見学者が列をなし、浮きやロープなどの潜水艦のような機雷掃討具など、普段みることができない珍しい装備を興味深く見学していた。日没後は、江の島シーキャンドルのライトアップやイルミネーションにあわせ電灯艦飾し、江の島を一層華やかにした。

また、藤沢募集案内所は岸壁に募集広報ブースを設置し、訪れた若者に「自衛官制度」の説明やアンケートを実施し、神奈川地本マスコット「はまちゃん」と「たま」は、カップルや親子連れらの記念撮影に応じていた。

藤沢募集案内所は、「今後も艦艇公開などを通じて、多くの人に自衛隊の任務や魅力を知ってもらい、募集成果につなげていきたい」としている。



掃海艇「えのしま」一般公開に  
列をなす見学者たち



江の島のイルミネーションに  
参加する掃海艇「えのしま」

## 自衛官候補生募集の危機的状況打開のため積極的市街地広報を実施

神奈川地方協力本部厚木募集案内所（所長 岡山一海尉）は、全国的に自衛官候補生の志願者不足が予想されていることから、その危機的状況を打開するため、利用者の多い主要駅前を中心に週4日積極的に市街地広報を実施し、自衛官募集を多くの人たちに呼びかけている。

12月14日（木）、大和市内の中央林間駅（小田急線、東急田園都市線）では、陸海空自衛隊の制服姿の広報官が募集リーフレット200部、迷彩柄ポケットティッシュ300個を若者たちへ声を掛けながら手渡した。

三沢基地三沢管制隊に所属し、神奈川地本募集課に臨時勤務中の女性自衛官野田 沙智子空士長は、行き交う人から「制服を初めて見ました」「大変な仕事ですが頑張ってください」「いつも通るところで見かけると、親近感を持てます」などと声を掛けられると、笑顔で対応していた。

厚木募集案内所は、自衛官募集をPRするため、様々な方法を施策し、実行していきたい。市街地広報は地道な活動ではあるが、徐々に募集成果も得ており、今後も積極的に実施し、1人でも多くの志願者を獲得していきたいとしている。



市街地広報に励む臨時勤務中の野田空士長（手前）  
と広報官（奥）（中央林間駅前）